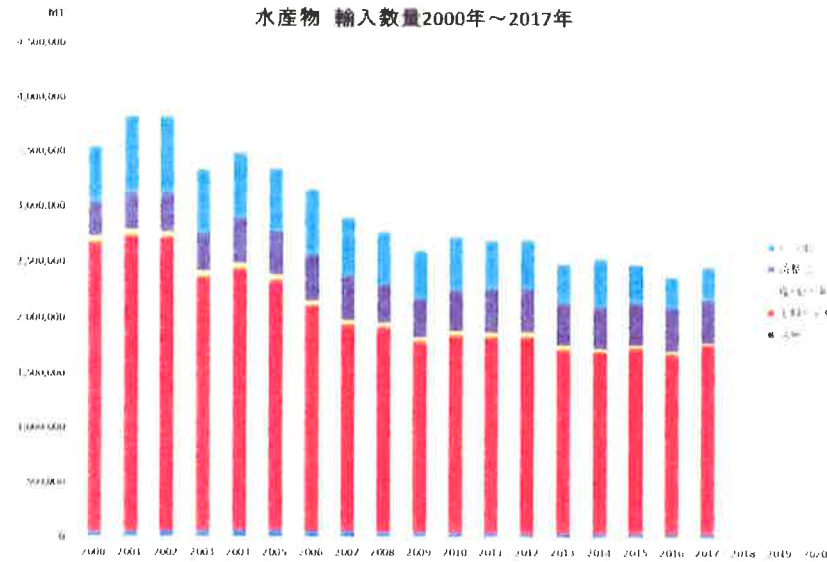




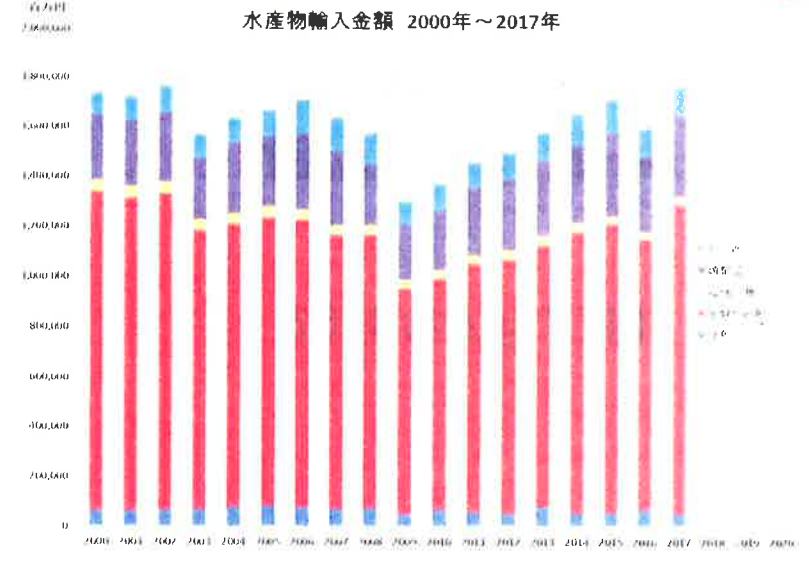
# 水産物貿易について

2018年7月27日

株式会社 極洋  
専務取締役 酒井 健



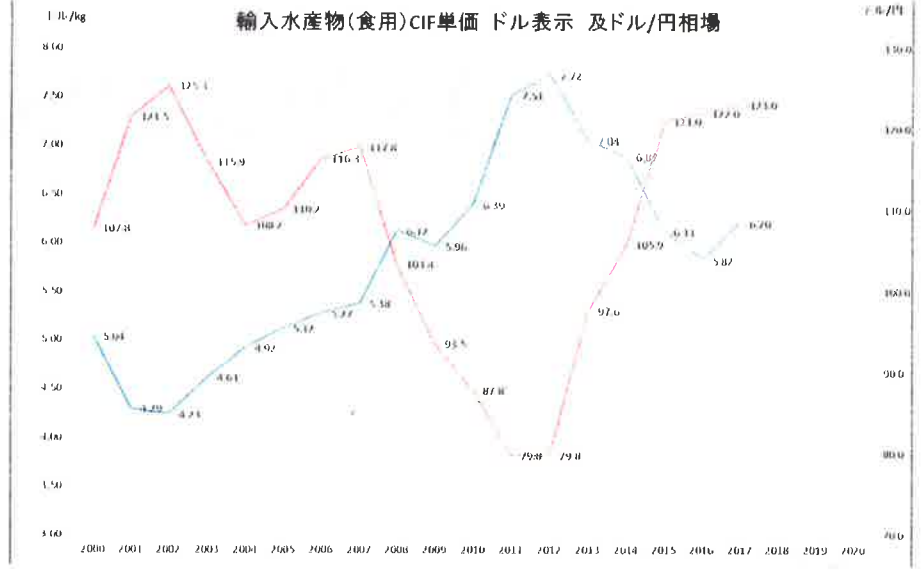
出典:財務省貿易統計



データソース:財務省貿易統計

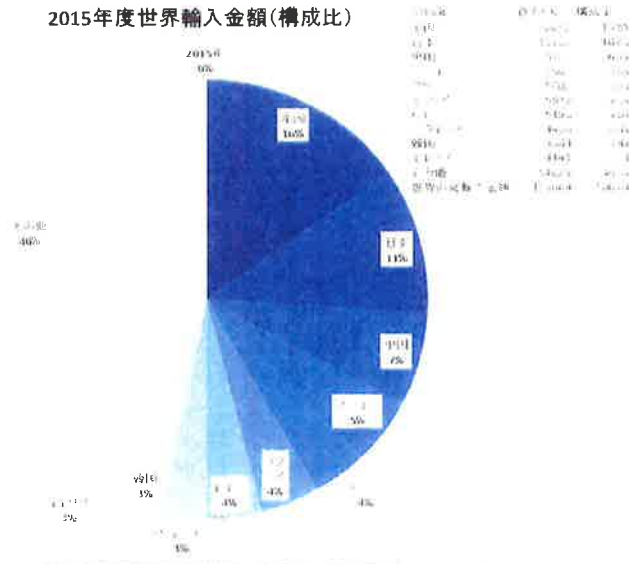


出典:財務省貿易統計



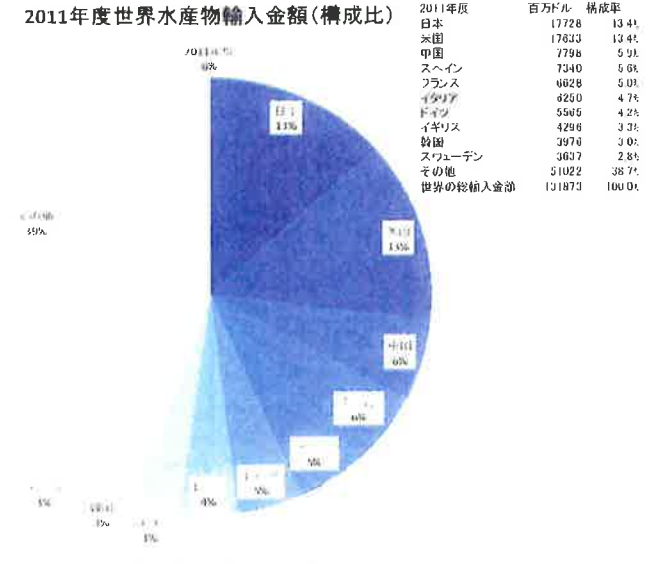
出典:財務省、IMFデータ

2015年度世界輸入金額(構成比)



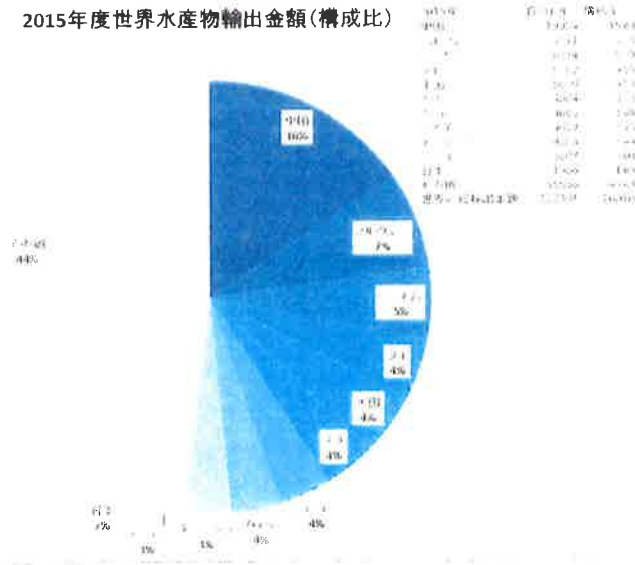
出典:FAO

2011年度世界水産物輸入金額(構成比)



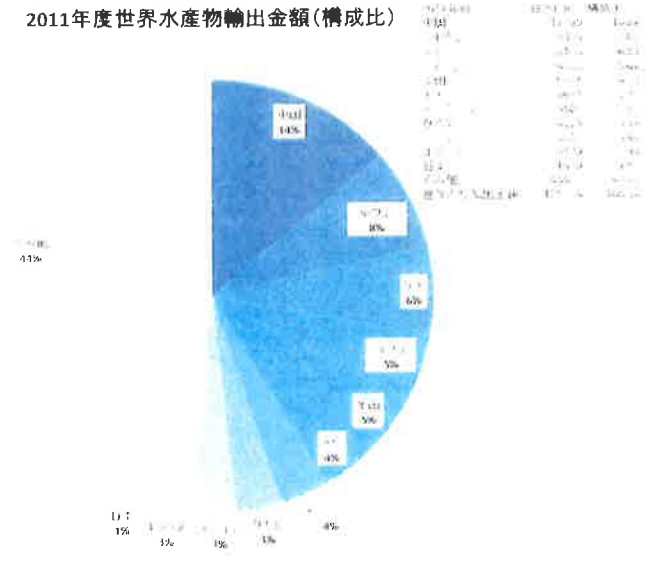
出典:FAO

2015年度世界水産物輸出金額(構成比)



出典:FAO

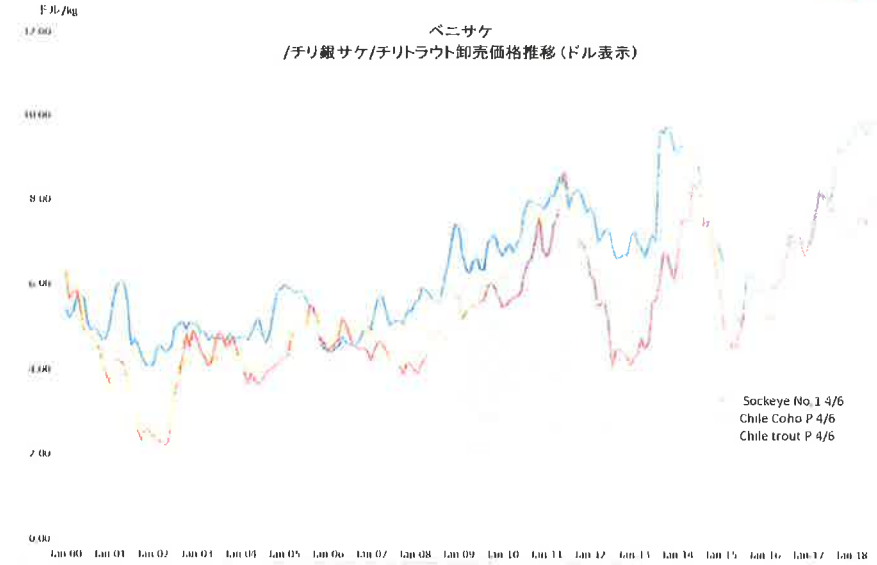
2011年度世界水産物輸出金額(構成比)



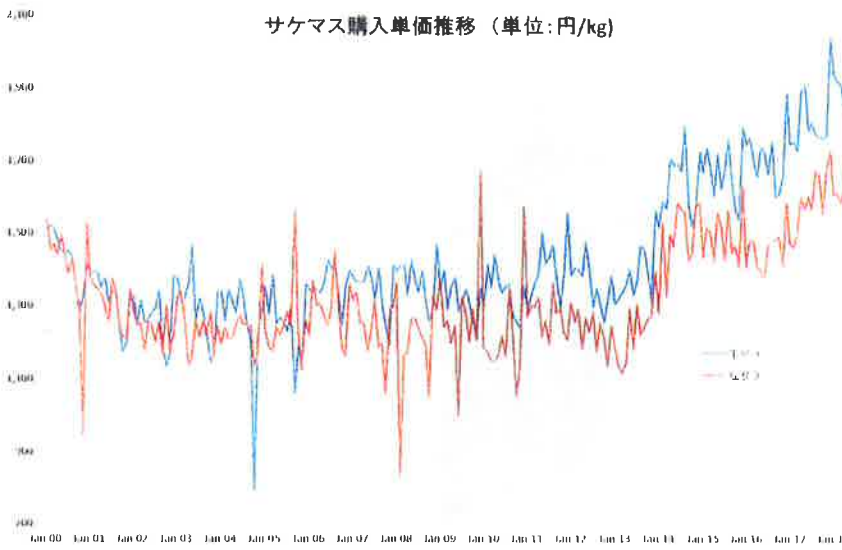
出典:FAO



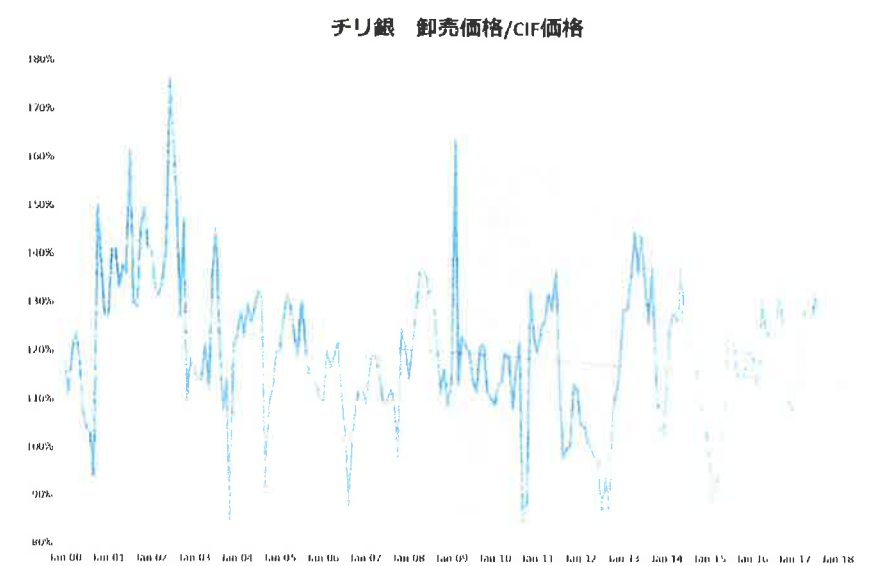
出典: 極洋調査



出典: 極洋調査



出典: 総務省家計調査



出典: 財務省及び極洋調査

① 養洋 2017年度 主要輸入水産物(国別)

(単位: mt)

	国名	原料	加工品	合計	比率
1	ノルウェー	41,610	2,027	43,637	25.4%
2	中国		31,919	31,919	18.6%
3	チリ	17,077	2,710	19,787	11.5%
4	アメリカ	18,036	22	18,058	10.5%
5	タイ	107	12,088	12,195	7.1%
6	ベトナム	618	11,520	12,138	7.1%
7	ロシア	9,724	15	9,739	5.7%
8	ニュージーランド	3,112	1,450	4,562	2.7%
9	アルゼンチン	2,711	368	3,079	1.8%
10	インドネシア	1,544	1,221	2,765	1.6%
11	その他	13,091	1,038	14,129	8.2%
	計	107,629	64,378	172,007	100.0%

④ 輸入取引の課題

- ・基本的には自由化されており、大きな問題となる参入障壁はない。
- ・反面、産地での買付競争が激しく、相場の変動によりマイナスとなる場面もある。
- ・国内の漁業者保護、消費者保護、国際的な資源管理などを目的に、いくつかの規制が存在する。
- ・輸入割当(IQ)品目、2号承認品目、事前確認品目、水産資源保護法、食品衛生法、食品表示法。
- ・IQ品目について:19品目が対象。近年、多くの対象品目が国内水産物より価格が高い傾向が続くなど、制度制定当時は想定していなかった状況もある。
- ・関税は、各国とのEPA、FTAにより、引き下げられる傾向にある。今後のTPP等に期待。
- ・為替の変動

② 養洋 2017年度 主要輸出水産物(品種)

(単位: mt)

品種	重量	備考
青物(サバ、イワシ)	14,500	アフリカ向け
		東南アジア向け(缶詰原料)
サンマ	800	東南アジア向け(缶詰原料)
ホタテ貝	1,300	中国、ヨーロッパ向け
鯉魚	950	タイ向け(ツナ缶原料)、
		北米向けカツオタタキなど生食製品
その他	2,950	
計	20,500	

④ 輸出取引の課題

- ・2017年の貿易統計によると、我が国の水産物輸出は2,750億円と、輸入17,739億円のおよそ1/6程度であり、水産物貿易上位に位置する国では圧倒的に比率が低い。海外需要の取込みができていないものと推測される。
- ・輸出を伸ばすには、相手国の品質管理規制に対応する必要がある。
- ・HACCPへの対応(特にEU)が不十分。
- ・持続可能な水産物の調達の実施が求められており、MSC、ASC認証、日本発の認証の仕組みであるMELの取得も今後GSSIの認証が得られれば有効と思われる。またイスラム圏への輸出にはハラール認証が必要。
- ・関税面での制約も、大きいとは言えないがある。TPP、EPA、FTAに期待。
- ・日本の水産物をアピールする場として、シーフードショーの国際化が必要。

※3国間貿易、委託加工用原料輸出は除く